

工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
 商工会館本館1階
 ※プリントしてご自由にお読みください。



初の「ズーム交流会」

工業部会有志が企画



▲▼参加した工業部会有志たち



工業部会有志メンバーはこのほど、同部会所属のセラム・グループ(緑区橋本)が運営する居酒屋「シルエラ」で初のZoom(ズーム)交流会を開催した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で客足減少が続く同店舗も盛り上げるとともに、停滞していた経営者同士の交流を復活させるのが狙い。当日は37人が参加した。



シルエラの専用メニュー

シルエラはコロナショック以前は、週末には予約だけで100人埋まる人気店だが、外出自粛の影響で客足が減少。現在はランチ弁当の販売に力を入れている。ただ、それだけでは店の運営費用はまかなえない。そこで始めたのが「Zoom飲み」向けのサービス。通常のZoom飲みで

は、お酒やつまみは参加者それぞれが持参する。これに対し、同サービスでは、店が用意した「専用オードブル」(税別3000円)かワイン(同2000円)を注文してもらえれば、自宅や職場に届ける。

これを知った工業部会有志たちが同サービスを呼びかけようと呼びかけた。「これまで定期的に経営者同士が情報交換をしていたが、コロナの影響で止まった。ただ、経営者にとって生きた情報を手にする交流は止めるわけにはいかない(同部会所属の経営者)とし、当日は37人が参加した。

同社の山口陽一社長は「課題もあったが、大変よい経験になった」と話していた。

なお、同社はコロナ終息後を見据え、7月から料理のテイクアウトと配達事業も本格化させる。

県が「再起補助金」創設 新分野進出を後押し

県は、新型コロナウイルスの影響を受けている中小企業に対し、ビジネスモデルの転換や新規事業に対する設備導入などに

2021年1月15日までに実施する事業を「再起支援型」として、6月30日まで申請を受け付ける。補助率は4分の3以内。支援分野は▽非対面型ビジネスモデル構築事業・感染拡大防止事業(補助上限額100万円)▽ITサービス導入事業(同100万円)▽生産設備等導入事業(同200万円)▽ビジネスモデル転換事業(同500万円)となっている。

例えば「自動車部品製造業を行っていたが、福祉介護用品製造に参入するための設備導入」や「生産性向上のための搬送用ロボット導入」などを挙げている。

副部長長コラム 「工業よもやま話」

天正10(1582)年 6月2日、織田信長は本能寺で明智光秀軍に包囲され、火を放ち切腹。秀吉は備中高松城を水攻めの中、信長の死を知るや毛利と和睦し、2万の大軍を率いて「中国大返し」を強行しました。この瞬間の判断がなければ、後の豊臣秀吉はありませんでした。

記憶に新しい2011年3月11日、東日本大震災で被災した。歴史から学ぶのは、ムで説いた三つの原則「想定にとられないこと」「最善を尽くすこと」「率先避難者になること」が生まれました。

ある新型コロナウイルスの感染拡大は、私たち経営者にとってまさに想定外のことで、こういう時だからこそ、歴史が参考にになります。ここから先、経営者に求められるのは、情報をいかに仕入れ、判断していくかだと思えます。

歴史から学ぶ想定外の行動

私自身、米リーマン・ショックや東日本大震災

和38(1963)年、私

たとい想定外のことがあつたとしても「正確な情報」と「的確な判断」で乗り切ったということ。現在、猛威を振るって

災の大津波に見舞われた釜石市では、3000人の小中学生のほぼ全員が避難し奇跡的に無事でした。群馬大学・片田敏孝教授が防災教育プログラ

現在、猛威を振るって

私自身、米リーマン・ショックや東日本大震災

和38(1963)年、私

和38(1963)年、私

和38(1963)年、私



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会